

授業の流れ

1 時間目 第 2 節 感覚と運動の仕組み（食べるためには運動が必要である）

課題 1，感覚器官と運動器官の連携を実際の「食う 食われる」の場面でさぐる

使用教材：ワークシート1、骨格標本（ネコ、ウサギ）頭骨標本（ウシ）

視聴覚教材（チーターがレイヨウを捕食する映像ビデオ）消化管標本（ネコ、ウサギ）

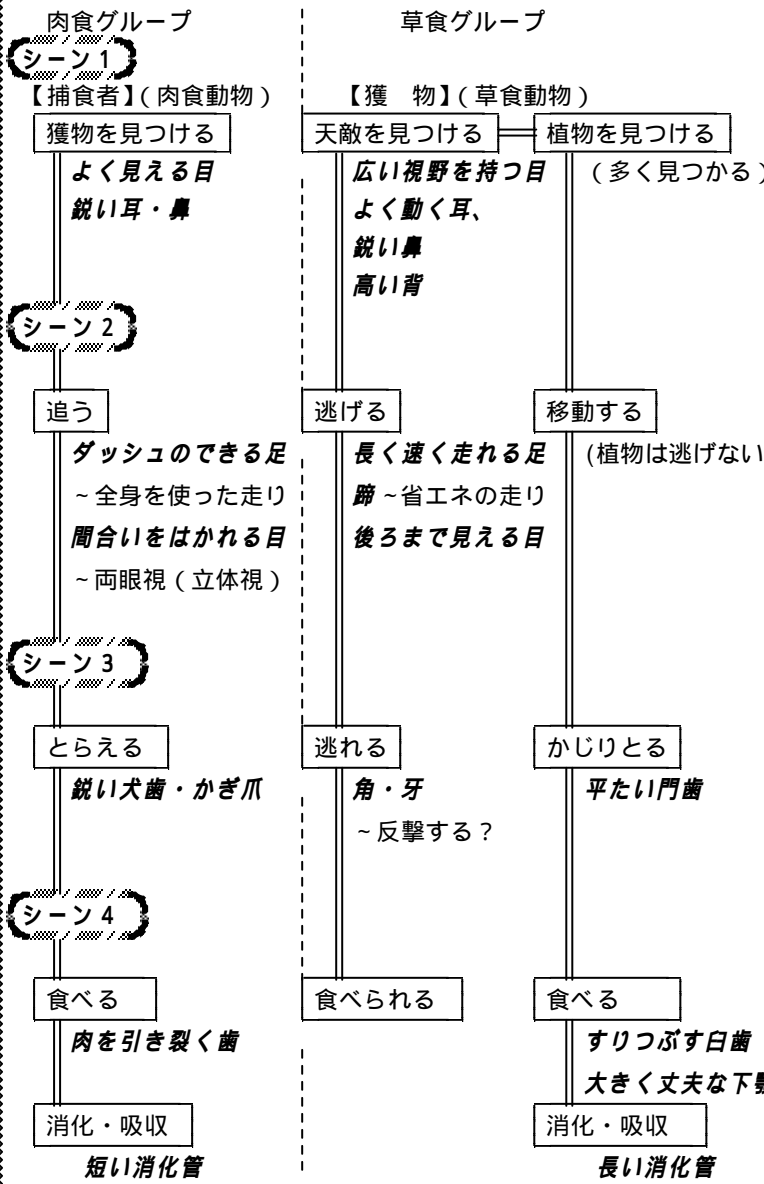
学習活動：獲物を捕らえる肉食動物のビデオからイメージをつかむ

班を肉食動物、草食動物の2グループに分けて、シーンごとに行動とそのための体のつくりを探る

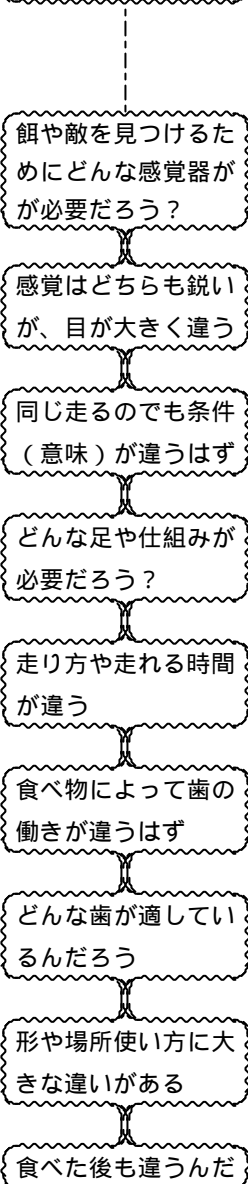
肉食動物（ネコ）草食動物（ウサギ）の全身骨格標本で確認していく

その他必要な情報は画像などで得てワークシートにまとめる

学習活動の流れと生徒の気づき（体のつくり）



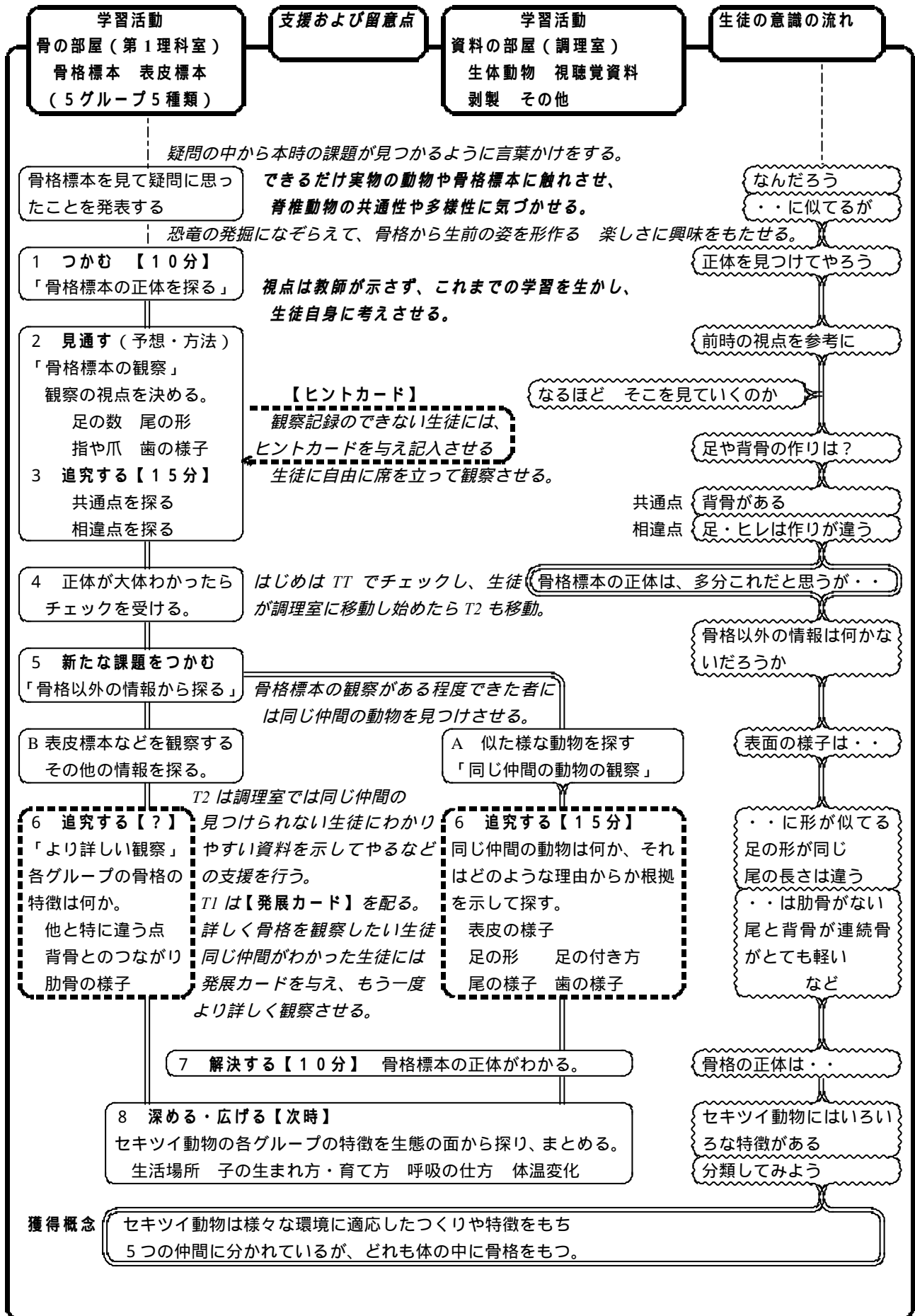
生徒の意識の流れ



評価
草食動物と肉食動物の生活の様子に関心を持ち意欲的に探求しようとする(B) (生徒の観察) 関心・意欲
観察の視点に基づいて骨格標本を観察している(B) (ワークシート) 技能・表現
食性と歯、目の位置、足などの体のつくりを関連づけて考察している(B) (発表・シート) 科学的思考
草食動物や肉食動物の体のつくりは食性と深く関わっていることを理解し身につけている(B) (ワークシート) 知識・理解

肉食動物と草食動物という視点での分類ができる **獲得概念**

動物の体のつくりと生活は関わりが深い **獲得概念**



骨の部屋・・・骨格標本陳列。生徒は正体を突き止めるために観察する。

【基本シート】 観察の視点は生徒自らが定める。規準を持った観察を主体的に行わせる
 足のつくり、爪、歯、目の付き方、その他特徴のある骨などから生活の様子をつかむ

【ヒントカード】 なかなか記入できない生徒については、視点を与えて比較させる

背骨があるのは？ 尾はあるかな？ どんな歯が並んでいるだろう？
 足の数や形は？ 足の付き方は？ 頭の形は？ など

資料の部屋・・・剥製・生体・写真等をならべる。表皮標本なども置き生徒は必要な情報を得る。
 表面の様子、生活の様子、呼吸方法、形態的な特徴などの情報から生活の様子をつかむ
 とともに、同じ仲間の動物を見つける

再び骨の部屋・・・発展的な学習の場

【発展カード】 記入の終わった生徒については、さらに細かな点に目を向けさせていく

それぞれの骨格で、ほかの動物と特に違っているのはどこか？
 肋骨はどうなっているだろう？ 背骨と前後の足の骨のつながりはどうか？
 骨の重さや内部の様子はどうか？ 歯の並び方や種類を比べてみよう など

評 価	・進んで正体を探ろうとしている。	（生徒の観察）	関心・意欲
	・有効な基準となる視点を設定して観察している。	（ワークシート）	科学的思考
価	・自分に必要な情報がわかり資料を選んで収集している（B）。		
	さらに、より詳しく観察して、特徴を記録している（A）。	（ワークシート）	技能・表現
	・セキツイ動物の特徴を認識し、知識を身につけている。	（発表・シート）	知識・理解